

『マイクロスコープ治療の過去・現在・未来』

The past, the present and the future of microscopic treatment



福岡市・金藤歯科医院 金藤哲明（大会長）

歯科診療所の数に比べ、実際に歯科治療に使われているマイクロスコープの数はまだまだ少数であると考えています。1590年にJansen（ヤンセン）父子が複式顕微鏡を造ったと言われていています。治療分野においては、耳鼻科、眼科での使用から1990年代になってアメリカに於いて歯科でも使用されるに至りました。1991年にG.B.Carrがアメリカ・サンディエゴにおいてPacific Endodontic Research Foundation (PERF)を設立し、本格的かつシステムティックに歯内療法への応用を確立しました。ペンシルバニア大のキムやシャネリックらもここで学んだと言われていています。日本においては、東京歯科大学、東京医科歯科大学をはじめとし徐々に広まっていくこととなりました。中川当学会前会長は1993年にサンディエゴにおいてG.B.Carrに師事し、1994年、G.B.Carrが来日し「微小外科的歯内療法処置の実際—直視下における根端部病変の処置」という題で日本初の講演を行いました。1995年には日本人向けのコースをサンディエゴで開くこととなり、私も参加いたしました。帰国後、各歯科機器メーカーをはじめカール・ツァイスにも直接問い合わせてみましたが、歯科用マイクロスコープは日本には存在しませんでした。カール・ツァイスに至っては後に私の診療所に担当者が尋ねてみえることになりました。中川先生の助言で1996年6月23日に念願のマイクロスコープを手に入れることができ、わくわくしながら根管を覗いたことを昨日のことに覚えています。その年の秋に、G.B.Carrが再来日されご一緒に講演を行い、また直接ご指導いただいたことは幸せな事でした。翌1997年、再度サンディエゴのPERFで研修を受ける機会を得ることが出来ました。今回、G.B.Carrの来日が先生のご都合によりキャンセルされたことは、大会長として大変残念で、期待されていた皆様方には申し訳なく思っております。本邦においては、保険制度の壁があり、なかなか広まらなかったマイクロスコープの歯科での応用は、次第にそのすそ野を広げつつあります。九州歯科大学臨床研修センターで2007年から始めた我々の調査をもとに、学生教育に使われた結果、研修医の意識がどう変わってきたかを紹介しながら、マイクロスコープ治療の将来を考えてみたいと思います。